
神などいない

天

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神などいない

【Nコード】

N5356L

【作者名】

天

【あらすじ】

日曜日の午前中、たまに宗教勧誘がきます・・・

断りのセリフを考えていて生まれた物語w

のわりにはわりとマジメ？

何やら雑誌を片手に、宗教の勧誘に来たらしい相手を前に、彼は無表情に静かに、尋ねた。

「神がいるなら、何故暴君が罰せられない？」

罪のない民が、何故救われない？」

突然の問いに、啞然と口を開閉させるだけの相手に、彼は続けた。

「神などいない」

その1週間後、地球は滅ぶと、世界中のメディアが告げた。

二人きりの部屋で、彼はやっぱり、と呟いた。

「神などいない」

よくあるSFのように、惑星の衝突で後わずかの時を残し、滅ぶ地球の上で。

彼はやはり小さく、静かに宣告するかのように言った。

TVでは、宗教家たちが盛んに信じる者は救われるのだと叫んでいた。

視線を彼へと移したあたしは、TVをぶつりと消した。

そうして彼との距離を膝で詰めた。

純粹な彼は、人の不幸に傷つき、誰より神を信じたくて、でも信じられずにもがいていた。

地球が滅ぶと知る、ずっと前から。

「神様は、いるよ」

のろのろと、彼の視線がようやくあたしを向く。

その腕を両手で掴んで、彼の手のひらを、自分の左胸に当てた。

「ここにいるよ」

彼の手を、あたしの鼓動が柔らかく押し返した。

もうすぐ終わってしまうけれど、それでも、生きていた。
感じていた。

微笑んだあたしは、彼を優しく引き寄せて抱きしめた。

誰が許さなくても、あたしの中の神は、彼を愛し、赦している。

例えば地球が滅んでも。

あたしの中の神は、不器用で優しい、純粹なあなたを、愛し続ける。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5356/>

神などいない

2010年12月18日21時25分発行